

志をつなぐ出会いの大切さ

教育・昭和57年卒・高松市立下笠居小学校 山下 真弓

教員になることは、幼いころからの私の夢でした。幼稚園の先生や、家で洋裁を教えていた母の姿から学んだ「やさしさ」や「基本の大切さ」は、私の職業観や人生観となっています。

小学校時代は、児童数1000人を超す学校の中に埋もれていましたが、高学年時、智恵子抄を音読することが常の森澤先生に描いた絵を賞賛されたことが、内気な私を開花させました。

中学校時代は、担任の岡先生の英語の授業が学びの楽しさを感じさせました。授業中、常に声をかけていただけたことは、英語だけは満点を得たい、大学で英語の免許を取得する強い気持ちをいただきました。

高校時代は、自由な校風が幸運でした。書道の魅力を小森先生に、放課後には放送番組の制作に没頭し、自分の新たな面を見出させていただきました。

そして、香川大学に入学。音楽研究室に入ったことは、青天の霹靂でした。同級生は、すでに声楽や楽器を学んでいたりと、中高時代から部活動でのたしなみがあったりしました。私にはひるむ間はなかったです。かつてNHKで視聴し憧れていたフルートに挑戦しようと吹奏楽団に入部し、大学外では佐倉先生の紹介で吉岡先生に学びました。世界的に著名な金昌国先生のレッスンを受れたり、ランパル先生に出会えたりしました。研究室のオーディションに通過し発表会に出たり、音楽の免許取得のための副卒演ができたことは感動でした。英語や幼稚園免許も取得し卒業できたことは、その後の出会いの幅を広げました。

念願の小学校教員を歩む中、想像外の出来事が起こりました。指導主事を経て、人事交流として香川大学で尊敬する教授の方々と同僚として働ける場をいただきました。恩師の薦田先生や竹中先生、七條先生に毎日お会いする中で、様々な仁徳の深い識者の方々と交流する機会をいただきました。幼いころから出会ってきた先生方に再会する機会もいただきました。世の中は広いですが狭くもあります。そして今、管理職という立場をいただきました。深い感謝の念と何かしらの使命を感じます。

現代の教育界は、有能で活気を放つ若い教員たちが急増しています。勤務校もそのとおりです。本校は、今秋10月30日に行われる生活科・総合的な学習の全国大会研究授業発表校であり、子ども達の成長を願い、毎晩遅くまで皆で論じ合っています。この教科領域は、主体性や協同性を育みます。現場に出て3年目ですが、若い方々の伸びの加速を感じます。先日、本校指導者の元教科調査官の嶋野道弘教授を本校にお迎えしました。教員の子ども達へのかかわり方の良好な変容と子ども達の学ぶ意欲の高まりに絶賛いただきました。大会までのプロセスで、好評頂けたことはこの上ない喜びです。

伸び率は高くない私ですが、出会った仲間になんかしらの影響を与え、そして感動をいただきながら前進していければと思うこのごろです。